

【事業実績】

R5 年度に制作した平和学習デジタルコンテンツ「戦争と人々の暮らし」の更なる発展と活用を目指し、デジタルアーカイブ資料の活用の拡充、平和学習コンテンツの機能拡充、学校の利用促進に向けて事業に取り組んだ。

R5 年度版の学校での利用状況：288 件（137 校）※クラス単位の申込 令和 7 年 2 月 18 日現在

1. コンテンツへの追加搭載資料の調査、収集

（目的：利用制限のかからない著作権フリーの資料の調査）

- ①ジャパンサーチ、連携館や他館の資料などを調査、収集
- ②米国国立公文書館での資料収集（R6.10.7-10.13 メリーランド州カレッジパーク）
＝約 100 点の写真資料を入手



米国国立公文書館



資料調査のようす



2. 平和学習コンテンツの機能拡充

- ①第 1 回検討会議（7/11：ピースおおさか）

国立民族学博物館の丸川教授、システム開発業者、当館職員とで資料調査の方針決定、コンテンツの拡充機能、利用促進の検討を行った。

- ②小学校教員との意見交換会（7/23：大阪市立小学校）

コンテンツを利用した平和学習の指導案作成のために、教員との意見交換会を実施

【教員の意見】

- ・どういった場面で活用ができるか→平和学習、人権学習、社会科。総合的な学習の教材として。平和資料館見学の事前事後学習。
- ・子どもが自主的に調べて、カードに分かったこと、思ったことをまとめ、オンライン上で教員に提出できる機能がよい。
- ・教員があらかじめ、写真や映像お選択し、授業で活用する方法もある。など

- ③第 2 回検討会議（10/1：ピースおおさか（オンライン））

国立民族学博物館の丸川教授、システム開発業者、当館職員とで、コンテンツの拡充機能（主に平和新聞機能）、利用促進の検討を行った。

- ④小学校教員との意見交換会（11/21、11/29：大阪市立小学校 2 校）

主に新たに追加した機能（平和新聞作成、年表）について、教員に使ってもらい意見を聴取した。

【教員の意見（大阪市立小学校①）】

- ・新聞のレイアウトが選べたらよい。文章が書くのが得意な子がいれば、不得意な子もいる。
- ・作成途中に教員がコメントなどを書いて児童へフィードバックできるような、やり取り機能がほしい。（R5 年版は一度提出すると児童は編集することはできない。）
- ・新聞の作成途中に、端末上で、子どもたち間で新聞を共有できるような機能がほしい。など

【教員の意見（大阪市立小学校②）】

- ・まとめ学習としての新聞作成はよい。
- ・新聞記者になった気持ちになって作成できるのがよい。
- ・写真に自動的に出典がつくのはよい。子どもたちに著作権について指導することができる。
- ・教員の権限のもと、作成途中に公開モードにして子どもたち間で交流できればよい。
- ・年表では全体の外観を見せることが効果的である。など

⑤第3回検討会議（12/11：ピースおおさか）

国立民族学博物館の丸川教授、システム開発業者、当館職員とで、システム構築中間報告、今後の機能拡充の方針（主に平和新聞機能）、利用促進の検討を行った。

⑥大阪市立小学校での試用（校外学習でピースおおさか見学後、コンテンツを利用した学習を実施、1/29）

3. 平和学習コンテンツ利用促進事業

①平和学習デジタルコンテンツ説明会の実施（参加者数 7/31：41名、8/2：43名）

端末を8台用意し、説明後に実際に参加者にコンテンツを体験してもらう場を設けた。



【参加者の感想】

- ・資料が多くあるので、子どもの興味に合わせた学習ができる。
- ・証言映像が約20分なので授業時間内で視聴できるのがよい。
- ・全校生徒を集めて平和学習をする機会があるのでぜひ活用したい。など

画像（左）→説明会のようす

画像（右）→説明会後のコンテンツ体験会

②平和学習コンテンツのガイドブック、チラシの作成、学校へ向けた広報

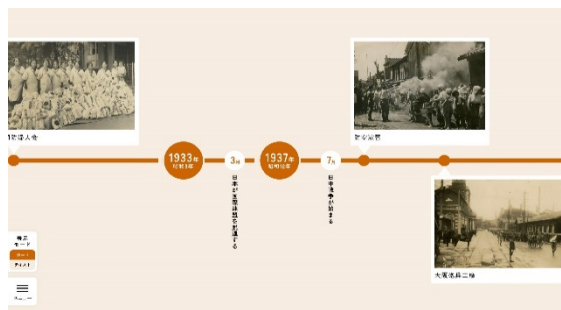
大阪府内の小中学校に送付、連携館へ周知依頼

③平和学習コンテンツ（機能拡充版）の利用開始（事業終了が年度末に近いので、本格的な運用は令和7年4月以降。）

◆平和学習デジタルコンテンツ 機能拡充版◆



<年表>



<平和新聞>※作成例

